

第3章

形容詞、副詞と 疑問、否定

本章ではまず、名詞を説明する語を広く形容詞というくくりに入れて、現在分詞と過去分詞の区別(→ p.138) や異なった形容詞を比較構文で使う特殊なケース(→ p.154)などを扱います。

また、副詞は文の主要素(主語、目的語)にならないはずですが、見た目ではそのように見える形がいろいろありますので、それらを調べてみましょう(→ pp.159～170)。

さらに、疑問詞の who を人間以外のものに使ったり(→ pp.185)、比較構文の than の後に否定語が現れるケース(→ p.193)や、否定の学習で一般には誤りとされている any → not の語順が許される形(→ p.198)など、例外と思える形がいろいろとありますので、それらをじっくり検討してみます。

3-1 -ing か -ed か? それの問題だ

— for the fiscal year ended March 31

1 現在分詞と過去分詞の区別

分詞の学習でもっとも重要かつ紛らわしいものに、現在分詞(-ing形)と過去分詞(-ed形)の区別があります。特に、分詞が後ろから前にある名詞を修飾する場合(後置修飾)は注意が必要です。まず次の問題を考えてみましょう。

問 次の2つの文(1a)(1b)がほぼ同じ内容を表すよう、(1b)のカッコ内の適切な形を選びなさい。

(1a) Two helicopters which belonged to the newspaper company crashed into the mountain.

= (1b) Two helicopters (belonged / belonging) to the newspaper company crashed into the mountain.

(1a)の文の意味は「その新聞社所有のヘリコプター2機が山に墜落した」で、which belonged ...に相当する部分を分詞で言い換える問題です。この英文はTwo helicopters (S) ... crashed (V)という形になっているので、空所の部分は述語動詞ではなく、直前のTwo helicoptersを修飾する分詞が入ります。さて、現在分詞belongingと過去分詞belongedのどちらが入るのでしょうか?

このとき、次のような書き換えが頭に思い浮かぶ人がいるのではないのでしょうか?

(2a) This is a letter which is **written** in English.

= (2b) This is a letter **written** in English.

(これは英語で書かれている手紙です)

(3a) Look at the boy *who is playing* tennis over there.

= (3b) Look at the boy **playing** tennis over there.

(あそこでテニスをしている少年を見てごらん)

つまり、(2a)や(3a)のような関係代名詞を使って書いた文から〈関係代名詞+be動詞〉を取り除くという方法です。

しかし、(1a)の文はwhich belongedという形でbe動詞がありません。しかも、belongは進行形で使えないので、次の(4)のような文はありませんし、belongは自動詞なので受け身にはなりませんから、(5)のような文もありません。

(4) (×) Two helicopters *which were belonging* to the newspaper company crashed into the mountain.

(5) (×) Two helicopters *which were belonged* to the newspaper company crashed into the mountain.

したがって、この問題は、〈関係代名詞+be動詞〉を取り除くという方法では書き換えができないことになります。

〈名詞〉を後置修飾する現在分詞・過去分詞の使い分けは、導入の段階では、上に書いたような〈関係代名詞+be動詞〉を取り除くという方法で理解するのも1つの有効な手段だと思いますが、それが通用しない場合もありますので、以下のように考えましょう。

● 〈名詞〉を後置修飾する現在分詞・過去分詞の使い分け

その〈名詞〉を意味の上で主語だとみなして、分詞の意味が、

(A) 「...する」「...している」という能動の意味関係になるときは
現在分詞

(B) 「...される」「...されている」という受動の意味関係になるときは
過去分詞

したがって、

- (1b) Two helicopters (belonged / belonging) to the newspaper company crashed into the mountain.

の問題は、Two helicopters と動詞 belong の関係が「ヘリコプターが属している」という「能動」の関係なので、正解は現在分詞 belonging となります。

(正解の文)

- (1b) Two helicopters **belonging** to the newspaper company crashed into the mountain.

2 consisting か consisted か?

動詞 consist の分詞用法の誤りもよく見かけます。まずは consist の動詞そのものの用法を確認しておきます。

問 空所に入れるのに最も適当な語句を1つ選びなさい。

About seventy percent of the human body () of water.

- (a) is consisted (b) consists
(c) are consisted (d) consist (武庫川女子大)

consist は consist of ... (...から成り立っている) のように使われる自動詞ですので、「そのチームは20人以上の人から成り立っている」を英語で言う場合、

- (6) The team **consists of** more than twenty people.

となります。つまり consist は (a) や (c) のような受け身の形では使えません。また主語 About seventy percent of the human body のように〈割合 of 全体〉という形をしている場合、動詞は〈全体〉の部分に単複を一致させます。the human body は単数ですので、主語全体も単数扱いとなります。(percent は単複同形→p.107) したがって、正解は三単現の -s のついた (b) consists です。

では、この consist が名詞を後置修飾する分詞になったらどうなるでしょう。次の問題を解いてみてください。

問 英文の () 内から日本語の意味を表す正しい形を選びなさい。

「私は20名以上から構成されるチームを統括している」

I'm managing a team (consisted / consisting) of more than twenty people.

先ほどの (6) の文を元に、まずは分詞を使わずに関係代名詞を使って表してみると、

- (7) I'm managing a team **which consists of** more than twenty people.

となります。この which (= the team) consists of の部分には受け身の意味関係がないので、過去分詞ではなく現在分詞を使った

- (8) the team **consisting of** more than twenty people

が正解の形となります。